

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500337		
法人名	医療法人 静光園 白川病院		
事業所名	グループホーム きらめき		
所在地	福岡県 大牟田市 上白川町 1丁目 246番地		
自己評価作成日	平成31年 3月14日	評価結果確定日	平成31年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成31年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

ご本人の出来ないことだけでなく、出来ることにも目を向け、活動に活かしている。また、一人ひとりの時間に合わせ、柔軟に対応している。外出支援に力をいれており、グループホームに入居されている方でも在宅支援が行えるように家族様と密に連携を図り、在宅への日帰りや宿泊支援を行っています。今後も家族様との連携を図り、行事などに一緒に参加して頂き、家族と過ごす時間も増えるように取り組みたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ほぼ隣接する敷地にある病院を母体にもつ「グループホームきらめき」は開設から10年を越えた、小規模多機能、デイサービスとの併設型事業所である。近隣一帯にある同系列の介護事業所と並んで運営されており、敷地の一角には地域交流室も設けられ、こちらは毎週地域に向けた「よかばい体操」の実施や地域住民の憩いの場としても開放されている。最近では新たに保育園も開設し、職員の子供の預かりなどで勤務体制を整えることに一役買っている。家族とも協力して、在宅と施設でのバランスをとったケアを目指しており、一時帰宅などをされる利用者もいる。日頃も利用者の「出来る事」に目を向けることで、過度に手を差し出さない介護を心がけ、意欲的に過ごしてもらう事に取り組んでいる。地域に開けた介護施設として運営されており、これからも認知症介護の中心となる発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践できていないと感じる時もあるが、出来る限り理念を共有し、実践できるよう努力をしている。理念の見直しが出来ていない為、今後職員全員で話し合いを行うように努める。	3年ほど前に一度見直し、「安心、笑顔、思いやり」に「感謝」を加えた。日頃も理念に基づいたケアの心がけており「笑顔」のあるケアや、「思いやり」のある言葉かけが出来ているかどうかを職員に伝えている。ミーティングの際に管理者から具体的な行為、声掛けについて指導している。スタッフルームの掲示があり簡潔で覚えやすいため職員にも馴染みがある。	理念そのものについて触れる機会がしばらくなかったため、改めて時間を取って話し合う機会をもつことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には出来ていないが、地域行事になるべく参加している。中学生の福祉体験を受け入れるなど地域交流の機会を得ている。	管理者が地域の隣組長になっており、毎月の自治総会にも参加し、地域情報をもらったり、認知症についての話をすることもあった。交流センターで毎週催しや健康体操をしており、利用者と一緒に地域交流の場にもなっている。利用者と地域の方も馴染みになってきている。地域清掃や正月花の季節行事なども行ける限りは利用者と一緒に参加もしている。	隣組長や公民館との関わりを活かして、地域の集まりの場での認知症啓もうの活動や、介護事業の案内など情報発信が徐々に出来るような働きかけも今後は検討されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々への発信はあまり出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では管理者だけではなく、他職員1名参加している。実際にサービスについて話し合い、意見や助言を参考にし、検討した内容を伝えている。	2ヶ月ごとに定例曜日と時間帯で開催し、併設の小規模とは別で単独開催している。会議資料に毎月発行の「きらめきだより」を入れ込み、内容に関してのアドバイスなども頂いている。家族には面会時などに別個に案内し、2家族程度が参加される。他は役所、包括、老人クラブ、などから参加している。利用者の事例や状況報告を行い、意見も多い。議事録は参加者に前回会議分を報告している、	きらめきだよりに、運営推進会議の案内や行事案内などの報告欄を予め作っておくことで、抜けないように報告されてはどうだろうか。議事報告も掲示板での掲示や閲覧ファイルの設置などでも共有することを検討されてもよいのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から積極的には取り組めていないが、必要時に連携をとり、協力関係は築いている。	運営推進会議には毎回参加してもらい、その際に質問なども受けている。役所からの連絡で空室照会を受けることも多い。管理者が「行方不明SOSネットワーク」に参加しており、その際に役所との連携もあり、顔見知りも多いため何かあった時の相談も気軽に出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制はせず、ご利用者の能力を信じ、行動や活動をして頂いている。日中は施錠せず、見守りにて対応し、夜間は防犯の為施錠はしているが、内側から解錠しにくいような複雑な施錠はせず、出て行かれた事がわかるようにセンサーだけは設置させていただいている。	玄関から自分で出られるようにしており、見守りによって安全に配慮しながら、日中は自由に抑制のない介護を行っている。研修は内部研修で系列法人合同で行い、内部での伝達をしている。原則、身体拘束をしない方針で、現在も拘束事例はない。言葉かけなどで気になる行為についてはその場で注意するようにしている。	身体拘束廃止委員会の設置と、年2回の定期的な研修開催について、減算要件を確認し、確実に実施されていく事が望まれる。

H31.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護グループ内の研修を受けており、声かけにおいて指示的にならないように配慮している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護グループ研修を受け理解に努めている。必要な方がいれば専門に繋げるように努めたい。	以前から制度利用者はおらず、活用事例はなかった。内部研修によって権利擁護についての研修を毎年実施している。制度についての一般的な情報については研修によって周知している。必要時は母体法人の地域連携室や役所に相談して対応する予定である。	玄関先などに制度資料やパンフレットを置くことで、必要な際に情報提供できる体制を整えてはどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス内容や料金、利用にあたり予測されるリスクや他のサービスについても説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族の要望に対して、病院職員や市役所などの窓口も設けており、職員間で共有し解決できるようにしている。	意見や要望は事業所で受けるようにしており、面会時にも話しやすい雰囲気を作るようにしている。遠方の家族の来訪は少ないが、電話やきらめきだよりによって報告をしている。以前意見箱も設置していたが、直接言ってもらう事が多いため、今は外している。	家族参加の行事などで参加者を募ることで、家族会的な話し合いの場を作り、日頃あがってこない意見が聞けるような場を作っても良いのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングを通し話す機会を設けるように努めているが、十分に設けることができないこともある。ケアマネや看護師、介護職員と意見交換を行い、よりよいケアが行えるように努めている。	不定期ではあるが、原則毎月開催でミーティングを実施し、それ以外でも随時ミニカンファレンスを開いている。正社員は原則全員参加で、利用者の状況などについて話し合い、意見も活発に出され、ケアについての意見も反映されている。管理者が日頃も現場に出ていることが多いため、相談もしやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談をしていたが、現在は出来ていない為、今後行いたい。休暇においては安定して確保出来ている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり性別や年齢による制限はない。一人一人が個の能力を生かせるような職場作りに努めている。	年齢構成は20～60歳代、男女比は3:7程度で、残業も少なく働きやすい。コミュニケーションもよく取られており、外部研修の案内、参加も希望によって可能である。休憩の確保やスタッフルームもあり、メリハリをつけた勤務がなされている。能力や特技を生かして、相互に協力しながらケアにあっている。	

H31.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご利用者を通し人権を尊重することをベースとして必要に応じ指摘を行っている。	人権そのものをテーマにした研修への参加はなかった。系列と合同での内部研修で「身体拘束・虐待」について取り上げる機会があり、その中で利用者に対しての対応については学んでいる。	年間研修計画の中で、人権学習についても取り上げることで、定期的、継続的な学習機会が持たれることにも期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修だけではなく外部研修に参加することができた。今後も研修を受ける機会を増やしていきたいと考えている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内との交流はあるが、他施設との交流はない。管理者は認知症コーディネーター研修を通して同業者との交流を大切にしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り本人の安心に繋げることができるよう本人や家族の声に耳を傾け、必要に応じ体験利用などの対応を行い関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様と密に連絡を取り、現在の様子なども伝えた上で、不安な事などないか話を聞き、安心してもらえるように取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と面談を行い、グループホームの他にも様々な施設があることを説明している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に過ごし話をする中で、新たな発見ができるように努め、生活を共にする関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報共有を行い、ご本人を共に支えていけるように努めている。		

H31.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へ帰る機会を設けているが、十分ではない。地域行事などに参加し知人との関係が途切れないように努めている。	家族の面会や連絡の機会は、遠方の家族も含め継続的に接点を持つようにしている。他にも、以前の教え子や、隣人、仕事仲間などの来訪もあり、面会は自由に受け入れている。毎週開催の「よかばい体操」を通じて偶然に知り合いに会うこともあった。家族の協力の下一時帰宅や外泊も可能な限りしてもらっている。以前は馴染みの美容室に定期的に通う方もいた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性に配慮し、更に一方の利用者が孤立してしまわないように日々考え配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へ足を運ぶ機会が無くなってしまい、出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント、モニタリングなどで、本人の状況把握、問題課題の検討を利用者本位で行っている。	アセスメントは、主に管理者が入居時などに行っている。利用者の状態や入所時期によって、センター方式を使ったり、使用様式も異なるが、本人家族からの聞き取りは管理者が中心となっているため不足なく聞き取りは出来ている。見直しは状態が変わった際には随時行う。意思疎通の難しい方は家族や職員の聞き取りから反映に努めている。	アセスメントやフェースシートの様式が統一されていないので、誰がしても聞き漏れや抜けがないように方策を見直されてはどうだろうか。また、管理者のみではなく、ケアマネや職員担当との関わりを深めていく事についても検討が望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や本人、家族からの聞き取りを行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や状態観察、生活リハビリの提供を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを確認してもらい、可能な事、不可能な事を聞いている。ケアマネの思いにならない様に努力している。	プラン作成は主にケアマネが行い、モニタリングは担当職員とも話し合って3ヶ月ごとに実施している、プラン見直しは概ね12か月でその際に担当者会議を行う。会議には本人や他職種からの参加もあり、意見をもらっている。	事業所内の全職員がケアプラン内容を意識したケアが出来るように、日々のプラン目標の実施チェックや、介護記録時にプラン目標を参照するなどの行動が一連のケア活動の中で取り組まれることに期待したい。

H31.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や日誌、申し送りなどを活用し共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の想いに対応できるように業務優先にならないようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の暮らしを支える地域資源の把握が不十分であるが、本人が心身の力を発揮しながら豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院がかかりつけ医となることを希望されることが多い。希望されない方に関しては、希望されるかかりつけ医を選択されている。	本人の希望があれば、外部のかかりつけ医の継続も可能で、何名かは外部を利用している。通院介助は原則家族にお願いするが、難しい場合は事業所から支援している。提携医の場合は訪問診療や徒歩での診療などを状況により活用し、職員にも看護師がいるため、日々健康管理が行えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師がいる為、相談しながら支援出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院スタッフとの情報共有し、安心して医療が受けられるように、また、早期退院できるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組めていないが、本人、家族の意向を聴いている。	事業所の方針として、現状は看取りをしない方針で、緊急時は救急搬送する旨説明している。本人や家族の要望として、最期を事業所と希望される方もおり、今後も継続して検討していく考えである。	今後は看取りケアに関しても考えていきたいと思っており、引き続き体制の構築や研修の実施なども実現されていく事に期待したい。

H31.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回病院全体で研修を行っており、AEDや安静肢位について実技を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施。地域との協力体制や家族様も一緒に参加された。	すぐ近隣に住んでいる地域の方と、利用者の家族にも声掛けをして、訓練にも参加してもらった。訓練は基本的には系列施設との合同実施で、日中、夜間想定も交互にしており、年2回の内1回は消防署の立会いの下で行っている。敷地内の系列施設に水や食料品などの備蓄物は保管するようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持って接するよう心掛けている。不適切な言葉使いがないように心がけている。	接遇についての研修も毎年定期的に行っている。利用者に敬意を払った言葉かけや抑制することのないような対応を意識し、日頃や、ミーティングの場でも取り上げて職員同士で話し合うようにもしている。トイレや入浴時の同性介助の希望についても対応している。おたよりなどの写真利用についても入居時に同意を得たものに留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を確認し、可能な方には自己決定の機会を提供できるよう配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とならないよう日々注意して努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感にあった服装を選ぶように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にも出来ることを探し、出来る限り準備や片付けを行っている。	土日のみ昼夕に業者からのメニューと半調理済みの食材配達があり、炊飯を事業所内で行う。それ以外の平日は事業所で買い物から調理まで行っている。利用者にも出来ることは手伝ってもらい、下ごしらえや盛り付け、配下膳などをしてもらっている。食事の感想や食べたい物などは調理担当者から聞くようにしている。おやつ作りなどを一緒にしたり、少人数での外食をすることもある。職員は時間を分けて別に食事している。	

H31.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い、水分量や食事量のチェックも行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助声かけを行っている。可能な方はご自分でしていただくように促している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態や意向に合わせ、出来る限りご自分の力で排泄できるよう支援している。	個別記録の中で、排泄状況について記録しており、ミーティングの中で改善提案や負担軽減につながるよう意見を出し合っている。日中は極力トイレ排泄を心がけて、座ってもらうようにして自立支援に取り組んでいる。改善への意見は担当職員や気づいた者が適宜申し送りなどで上げるようにしている。	排泄状況の管理はされているが、チェック表の様式について、24時間で1週間～程度の時系列の管理が可能で、かつ誰がみても漏れや抜けののないチェックができるような管理の方法について検討し、排泄状況改善につなげることに期待したい。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防で飲食物では食物繊維など取れるものを工夫している。服薬による排便コントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者からの入浴に対する希望訴えはない為、スタッフが声かけで行っている。	ユニットバスの造りで、概ね週2回程度で午前から16時までで入浴日を定めている。拒まれた際にも無理強いせず、日にちをずらしたりして気の向くときに入浴してもらう。浴槽のお湯も毎回変え、入浴剤も毎回いれて楽しんでもらっている。介助者は毎回身体状況も観察し、適宜看護師に報告して処置もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感がみられる時や本人の希望時は居室へ誘導し臥床を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の目的や副作用などを把握しており、他職員がわからないことがあれば看護師に確認している。毎回準備時や与薬時には確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分とは言えないが、得意な分野での力の発揮、役割を生かした支援をしている。		

H31.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行えていないが、散歩や外食など可能な限り支援している。	全体での外出にも力を入れており、ほぼ毎月ドライブや徒歩での外出にしている。日頃も近くの散歩やコンビニに買い物に行ったり、外食でもレストランやバイキング、寿司屋などにも外出した。計画以外でも日によって臨機応変に外出することがあり、車いすの方や寝たきりの方も含め、敷地も広いため外気に触れる機会を持ってもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ていない。遠方に住んである家族様から最近の様子を聞かれることがあるが、本人様との会話が困難で職員が様子を伝えている状況である。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り季節感を感じていただけるような飾りつけを心掛けている。	デイサービス、小規模多機能と併設の造りで、アイランドキッチンのあるリビングから回廊式に各居室へと廊下が伸びている。レイアウトも利用者の状況などで柔軟に変えており、一角には段差のない和室スペースも設けられている。廊下の各所にトイレや洗面台も設置され、居室から近いところを利用できる。中庭が点在する造りで採光もよく、シックな色合いのフローリングが障子などと合わせ和風の雰囲気を出し落ち着きを感じさせる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や共有のホールを活用し、その時のご本人の要望やご様子に応じて選択できるように努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や、ベッドの配置も工夫して、私物や写真があり、本人が落ち着かれるような環境を整えるように工夫している。	居室の広さは共通で、リビングと同じビニルのクッションフロアである。ふすま戸で仕切れ開口も広く車いすでの出入りもしやすい。電動介護ベッドは事業所によって備え付けられており、本人の家具などの持ち込みも自由で、机を持ち込んで部屋で読書していた方もいる。部屋によっては掃き出し窓もあり、各所に中庭があるため緑も望め採光もよい。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行状態に合わせた、福祉用具の使用で自立した移動が出来るようにしている。		